宝塚市新病院整備基本計画書【概要版】

お問合せ先　宝塚市立病院　経営統括部　　宝塚市小浜４丁目 5-1
TEL：0797-87-1161（代表）　FAX：0797-87-5624

新病院の基本的なあり方

【新病院が目指す方向性】

信頼される急性期病院	救急医療の充実、がん診療などの専門性強化 災害や新興感染症流行など非常時の体制を整備 最新技術を活用した安心安全な医療提供
地域医療を支える病院	地域の医療機関などとの連携強化による地域完結型医療の提供を目指し、地域包括ケアシステムの更なる進展に貢献
持続的な医療提供が可能な病院	全室個室による病室整備（療養環境充実・運営効率化） 患者さんや家族にやさしく、職員が働きやすい環境づくり 医療従事者への教育研修の充実、人員確保

【病床機能の方向性】

当院が担う病床機能
- 急性期機能
- 高度急性期機能

- 回復期機能 ◀ 阪神北準圏域で不足する回復期機能は、既存棟エリアの利活用において回復期病院を誘致
- 慢性期機能 ◀ 圏域内を中心とした地域医療機関との連携により地域全体で確保

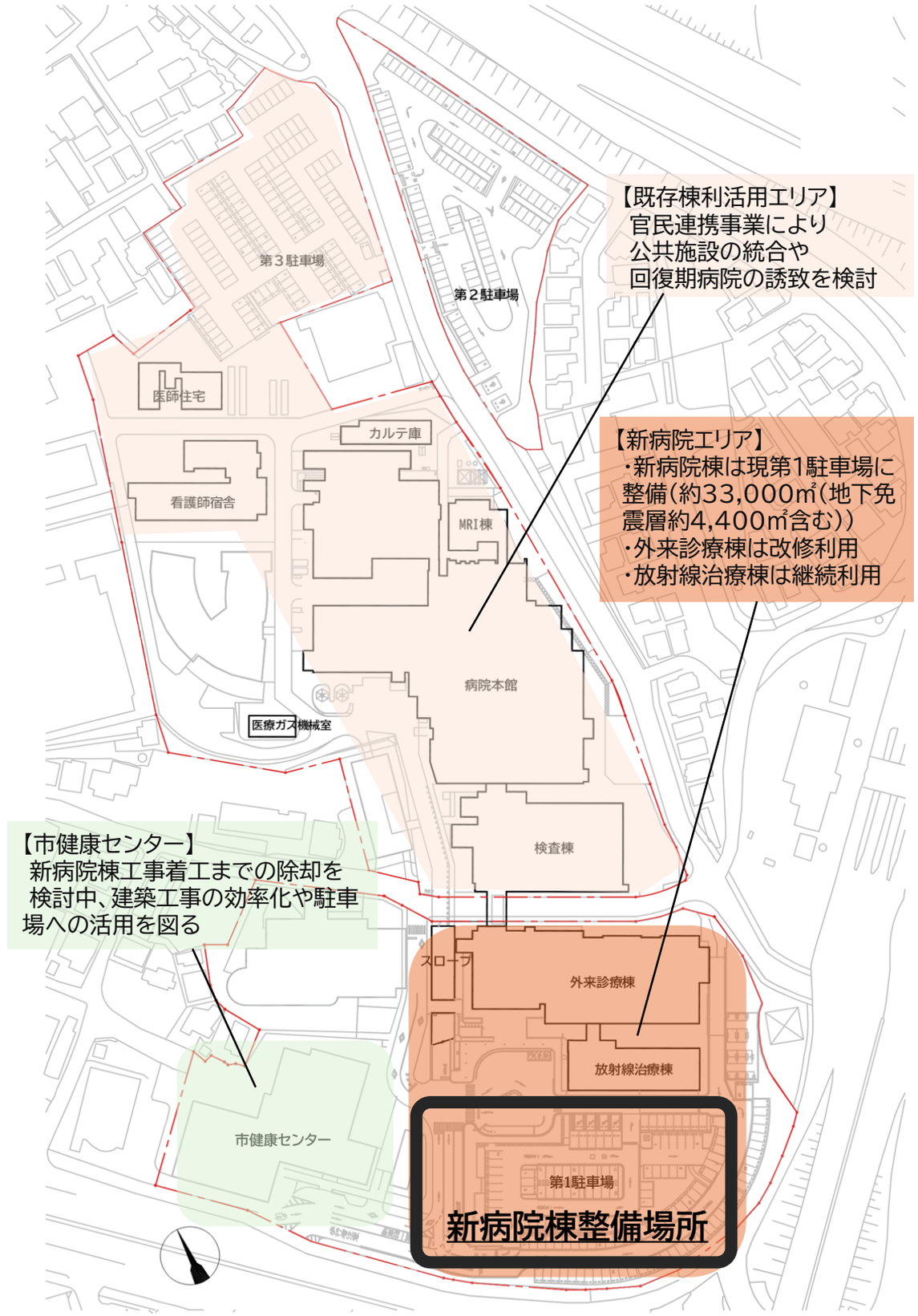
【医療・福祉・介護・保健に係る「たからづかモデル」における役割】

「たからづかモデル」では、市立病院の建て替えを契機として、市が有する医療・福祉・介護・保健に係る資源を有効活用できるネットワークを構築し、効果的・効率的な連携を図ることで市民サービスを向上させるとともに、持続可能な提供体制を構築することを基本方針としています。市立病院は医療と各分野の連携を構築する上で、大きな役割を担っています。

市立病院

- 国民健康保険診療所：西谷地域の医療空白を埋める市営の診療所
- 健康センター：健診や相談、健康教育などを幅広く支援する公共施設
- 子ども発達支援センター：障碍や発達特性のある子どもを療育・支援する公共施設
- ステップハウス宝塚：医療ケア、リハビリ等を行い、在宅支援や在宅復帰を目指す公設民営の施設

新病院の施設整備計画



宝塚市新病院整備基本計画書【概要版】

お問合せ先　宝塚市立病院　経営統括部　　宝塚市小浜４丁目 5-1
TEL：0797-87-1161（代表）　FAX：0797-87-5624

新病院の規模・機能

【病床数・想定患者数】

病床数	入院患者数	外来患者数
310床程度	約288人／日	約830人／日

現病院：436床

病棟の全室個室化＊を予定
よりよい療養環境の確保や病床稼働・運用の効率化を図ります。
＊有料個室は概ね90床以下（病床数の30％以内）

重症系病棟
将来的な医療需要、救急・手術等の診療体制等の変化に応じて柔軟に運用できるよう重症系病棟を12床程度整備し、本院が担う急性期医療の機能を持続的かつ最大限に発揮できるようにします。

【診療科目】

内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、腎臓内科、血液内科、心療内科、緩和ケア内科、腫瘍内科、糖尿病内科、外科、呼吸器外科、脳神経外科、乳腺外科、整形外科、形成外科、リウマチ科、小児科、皮膚科、泌尿器科、婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、病理診断科、救急科、歯科口腔外科、麻酔科（合計30診療科）

現在の病院機能を維持

【新病院で強化する診療機能】

がん治療
質の向上、症例数確保、人材確保等に向け、ロボット手術やIVR治療などの実施体制を整備

IVR：X線透視やCTなどの画像でからだの中を見ながらカテーテルや針を使って行う治療のこと

手術機能
麻酔科医や特定行為看護師など人材の充実、高齢者の整形外科領域の需要増に対応

リハビリ機能
早期の急性期リハビリにより健康維持・回復・早期退院を支援するとともに、病棟内にリハビリ環境を整備

最新技術の活用
AIやICTなどの活用を通じた業務効率化や医療の質向上・医療安全の推進

整備スケジュール・整備手法・交通アクセス

【整備スケジュール】

R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
基本計画		基本・実施設計		建設工事			開院

【整備手法】▶「設計施工分離方式」

【交通アクセス】▶ 駐車場台数の確保や敷地内循環バスの検討などにより利便性を確保

新病院の事業計画

【概算事業費】

建築工事費	約317億円	新築工事費、外構工事費等
設計監理費等	約20億円	設計費、監理費等
医療機器整備費等	約46億円	医療機器整備費、システム整備費等
改修工事費	約18億円	外来診療棟（医局、管理部門）
合　計	約401億円	

※概算事業費や収支計画は、令和8年3月以降の建築単価上昇や企業債の貸付金利上昇などを見込んでいません。今後、基本設計の内容を公表する際には、建築単価や貸付金利等の動向を考慮した事業費及び収支計画についても作成のうえ公表することとします。
※「たからづかモデル」において、病院本館や検査棟などの利活用策を検討中のため、上記事業費に解体撤去費用は見込んでいません。

【収支計画】

（単位：百万円）

	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20	R21	R22	R23	R24
事業収益	15,051	17,003	16,774	16,708	16,658	16,847	16,301	16,143	16,135	15,871	15,896
事業費用	15,218	16,779	16,505	16,439	16,610	16,626	16,106	15,926	15,947	15,729	15,721
経常損益	▲167	224	269	269	47	221	195	217	188	142	175
現金預金	▲657	▲924	▲800	▲616	▲354	▲344	▲341	▲351	▲398	▲129	137

新病院開院後の経常損益はおおむね黒字となっていますが、一定期間は現金預金が不足する見込みであることや、新病院開院までの経営状況が厳しい状況であるため、更なる経営強化に取り組みます。